

オバパト隊(熊本県)



雨、風、大雪の日も心は感謝のパトロール

防犯パトロール等の防犯活動のほか「オバパト大学」を設立、地域住民との交流を図りながら地域の防犯意識を高める活動を展開している。

1 自己紹介

2 パトロール隊結成の経緯

日本各地で児童殺傷事件が相次いだことから、平成 17 年 4 月「子どもは未来を託す社会の大事な宝、子どもを守りたい。」と、自主防犯パトロール隊「オバパト隊」を結成した。

オバパト隊は、

力まず気負わず無理せず、長続きをしよう

3人集まれば、パトロール

経費は他に頼らず、自分達で調達しよう

過激な場面に遭遇したら状況を見定めて警察に連絡しよう

を合い言葉に防犯活動を展開している。

3 オバパト隊の思い

「犯罪を減らすために、日本全国をオバパト隊でいっぱいになりたい」との夢の実現のため、全国の人にパトロールの楽しさや生き甲斐を知ってもらいたい。

4 活動費の自己調達

「活動資金は自前で」という信念のもと、不要となった着物等をブラウス等にリメイクして販売、それによって得たお金をボランティア活動費に充てている。

5 活動の内容

子どもの安全を重点に掲げ、小学生が下校する時間帯にあわせた見守り活動、夜間の公園・コンビニ店等における少年に対する声かけ、一人暮らしの高齢者へ声をかけながらのパトロール等を展開している。

6 オバパト大学設立

平成 18 年 9 月、地域の防犯や交通安全のほか、経済、芸術などを学ぶ「オバパト大学」を設立、地域住民との交流を図りながら地域の防犯意識を高めている。

（オバパト大学の活動内容）

毎月 1 回の勉強会開催（高齢者が狙われる事件の予防及び情報交換）

他地域のボランティアパトロール団体との交流を行い、連携を図る。

地域の活動に参加し相互の親睦を図る。

楽しくサロッキング(ウォーキング)を実施しながら、常に目配り気配りのパトロールを行う。

常に心も体も自然体を心掛け、楽しくなるような発想を寄せ合う。

7 学校議会設立

全国各地でいじめによる自殺が相次いだことから、いじめをなくすために学校議회를設立。

「子どもの思いを受け止めてやりたい」、「先生達の苦しさを理解し、立場も守りたい」、「保護者の悩みを分かち合いたい」と大人、子どもたちが話しにくいことを郵送で受け付ける「心の玉手箱」を設置、いじめ防止に取り組んでいる。

8 安全マップ作り

行政、地域、児童、保護者が一緒になって、校区内の危険箇所調査を実施して安全マップを作成するとともに、また小学校において子どもたちによる安全マップ発表会を実施している。

9 パトロール隊員の生き甲斐

パトロール活動は、地域のために頑張っているという連帯感と活動の楽しさからパトロール隊員の生き甲斐となっている。

オバパト隊（熊本県）

下川 皆さん、こんにちは。

私たちは、今この会場に来ております応援団も含めて、あの雄大な大阿蘇のある熊本からやってまいりました。オバパト隊長下川でございます。

本日はですね、このような会場で皆様のお話することは、余りにも不慣れなためですね、緊張で頭の中は真っ白、足はがくがく、胸はドキドキ、話はあちらこちらに飛びますので、お聞き苦しいと思いますが、しばらくご辛抱くださいませ。

本日発表の皆様はすごいですね。気合が入っとられますね。私は何か恥ずかしくなりました。



パトロール隊結成の経緯

私たちのオバパト隊はですね、ただただ主婦の集まりでございます。女ばかりでございます。大昔の花の火の国乙女、今、オバタリアンでございます。オバタリアンとはですね、上品と言われるにはちょっとほど遠くて、何もかも興味を持ち、いざというときにはなりふりを構わず、体当たりで物事に当たり、反面、母親のような目で周りを見つめる性格があるところから、オバタリアンパトロール、つまりオバパト隊となりました。平均年齢 70 歳でございます。

私たちの住む町は、人口 1 万 3,000 人、世帯数 8,800、小学校の児童数 900 人の熊本では東部に位置する振興住宅地でございます。オバパト隊の結成のきっかけは、平成 17 年 4 月全国で幼い子供たちが次々に被害に遭う、殺される、おぞましい事件が続発します中に、私たちの残された人生のわずかな時間をその子供たちを守ることに役立てればという思いから始まりました。

子供たちは、私たちの未来社会を託す大事な宝物でございます。周りに呼びかけまして、3 日間で 43 名、賛同をいただき、結成に至りました。現在 129 名となりました。今、若いお母さん方は仕事と子育てに忙しくて、私たちがやらねばだれがやる。やろう、やろうと。また、パトロールに金は要らない。元気な体と心があればなどとですね、いきがって余りの盛り上がり、肝心の必要経費が要るのをころりと忘れておりました。そこで、基本的なことをみんなで話し合いました。

「力まず気負わず無理をせず、長く続けよう」、「3 人以上集まれば、パトロールをしよう」。熊本ではうろろうろすることをサロクと言います。つまり目配り気配りのサロッキングをしよう。過激な若



者と出会っても、目に余るような場面に直面しても、決してとがめず、オバタリアン特有の持ち味で自然にずりずりっと相手の立場の中に入り込んで、真剣に話を聞いて受けとめよう。早まった対応はせず、様子を見て警察に相談しよう。小さな親切、大きな要らん世話と言われないように気をつけようなどと取り決めました。

活動費の自己調達

そうしているうちに、隊員が129名となりますと、経費が問題になります。ジャンパーも青色帽もいろんなものが要ります。だけど、ボランティアというからには心も体も金も手出しが常識、資金は決して他に頼らず、先ほど私、資金のことを一生懸命聞きましたけど、女だからできることで調達しようということになりました。お願いをいたしました。皆、昔の火の国乙女でございます。出てまいります。



今、日本中で捨てられていきます昔の古い着物、ちりめんや大島つむぎなどをリメイクして、世界に2つとない洋服に創作して販売することにいたしました。見てくださいます。これが100年前の昔の古い着物、今、若い人はですね、ぼいぼいっとこういうのを捨てていきます。こんなにきれいに仕上がります。私の着ておりますのは、この白の大島、見えますでしょうか。白大島でございます、これが100年以上前のちりめんの色留めそででございます。3名とも全部明治・大正の捨てられていく着物でこのような、顔も美人ですけど、日本の文化を残しながら変身して輝き、展示する暇がないように、飛ぶように売れていきます。これで資金づくりをしております。

この売上は、帽子、ジャンパー、勉強会のお茶代、それから一番多く占めるのは青パトの油代でございます。活動すればするほどリメイクを盛んにしなければ間に合いません。しっかり見せてからおりてくださいます。後で手にとって見てやってくださいます。

オバパトの活動は、小学校のものすごい協力があって、尾ノ上小学校と綿密な打ち合わせの上、下校時間の表をいただき、下校時の通学路にですね、10メートル置きにぱっと立ちます。その前を児童が下校いたします。これですね。

活動の内容

これが今のドレスをリメイクしているところの様子でございます。オバパト隊の活動、これが10メートル置きに、夏の暑い日もですね、雨の日も風の日も……。これは大雪の日でございます。もう雪が50センチぐらい積もった非常にすごい日のパトロールでございます。

夜は、高齢者宅に声をかけながら、若者が開放される8時ごろから公園の暗がりやコンビニの駐車場を回ります。公園の暗がりには高校生や若者がくっついております。非常に多うございます。これは私たちもどきどきどきどきとしますけれど、これも青春なのでございます。だから、「こんばんは。青春してますか」と声をかけます。結果、いつの間にか…公園の暗がりでは若者がたむろしながらシンナーとかお酒とか、たばこの回し飲みをしておりました。花火の振り回しもしておりました。自転車のちょい乗り、乗り捨て、これがものすごかったのが、全く見かけなくなりました。どこかに場所換えをしとるのかもしれませんが。私たちはそれをまた探り出さねばなりません。ですが、若者はあくまでもあくまでもやさしい言葉には純粋に反応します。少し寂しいのかもしれませんがね。

私たちはただただもくもくとパトロールをいたしますが、昨年の今の画面のあの12月の大雪の日ですね、実は、オバパト隊は高齢者ばかりだから、危ないから今日はパトロールを自粛しよう。オバパトにオバパトが要るようだったら大変だからと指令をしてあったんです。だけど、私が抜け駆けをして校門の前に行ってみますと、何と93名のオバパト隊が出動しておりました。私は胸がいっぱいになって涙が出ました。いつも本当に風のようにグリーンジャンパーを来て校門の前に集まり、木の葉のようにぱっと散ってパトロールをします。もうこのごろの暑い日でも冷たい飲み物をいっぱい欲しいとは申しません。

私たちは、また月に一度警察から、熊本の県警やら東署からですね、防犯術を講演していただきながら勉強会をいたします。そのときいろんな情報の交換をいたします。その場面で私は、皆さんに、オバパトの隊員の人たちに、「あなたたちをここまで突き動かす根拠は何。あなたたちをここまで駆り立てるのは何」と聞いてみました。みんなが「感謝です」と言いました。

私たちは、幼年時代食べる物も着る物も通学に履く靴さえない時代に育ちました。今このように恵まれ、行政や警察に守られ、家族に励まされ、しかも元気でパトロールできる幸せに感謝というのです。何かしなければ罰が当たるとというのがみんなの考えでございました。私はまた感動で胸が熱くなりました。

そうこうしているうちに、初めは声をかけてもしらっとしていた子供たちから反応が返ってくるようになりました。小学生がきちんと帽子をとって、あいさつをするようになりました。これは学校の指導が影響していると思います。「オバパトのおばちゃん、ご苦労さん」、「オバパトちゃん、ありがとう」、「オバパトのおばちゃんたちはもうババパトじゃないんね」と声がかかってきます。うれしいですね。心がぼかぼかぼかとするのです。

そのうちにですね、信頼関係ができ上がりますと、学校側からのものすごい協力があって、暑い暑い夏の日、安全マップづくりをすることになりました。学校の先生たち、児童、保護者、地域の住民、オバパト隊が一体となって、もちろん警察のご指導を受けながらですが、入りやすく見えにくいところ、子供たちは真剣に危険なところを見つけ、住民にインタビューをして写真に撮り、子供たちの動きは何と活発ですばらしいことでしょう。私がぜいぜい言っておりますと、「おばちゃん、腰かけとっ

てください。僕たちが頑張ります」といたわり
ます。いざというときの駆け込みステーション
までをマップに落とし、いよいよ
マップが完成し、その発表の日、何と1年生から
オバパト隊に招待状が届きました。そのとき
小学生がオバパト隊への感謝を込めてオーケス
トラを演奏してくれたのです。歌はあのやさし
いピリーフです。私今日は声がかすれておりま
すので、本当ならここで歌うんですが、すみま
せん。

それで、そのやさしい歌に私たちは感動で涙
がぼろぼろ出ました。オバパトで頑張ったよかったです。この子たちを絶対に守らなければと本当にその
とき決意を新たにいたしました。

それから、私たちはまたパトロールは夜は暗くてですね.....これは招待状です。これはオーケス
トラを歌ってくれた画面です。もうこのときは泣きました。

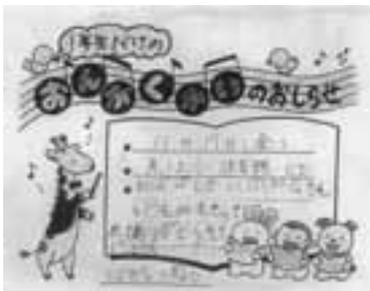
それから、パトロール中の会話ですが、私たちは暗くて寂しいので話をしながら歩きます。その
話題はですね、楽しくてストレスが吹っ飛びます。殊にお互いの主人の話になると、また盛り上がり
ます。

私たちはもう一つ資金稼ぎのために「安心・
安全の食」にこだわった「オバパト漬け」をし
たり、チャリティバザーをして、そのために
129名が前日から買い出し、仕込み、料理づ
くり、髪を振り乱して頑張り、3時間販売して
16万円売り上げ、8万円利益が上がったので、
大きいですね。うれしいですね。

ところがですよ、よく考えてみますとね、主
人たちは何もしなくて優雅に微笑んでおっ
てですね、ぼろっと年金が入ってくるんです。定期的
に。何とありがたいでしょう。年金じゃなく
て主人は、そこでそのありがたい主人をいつま
でも生き生きと長生きさせて、長く長く年金を
いただくにはどうしたらいいだろうということに
なりました。すると、だれかが言いました。暗
いから顔はわかりません。それではみんな1日
に最低2回以上、さりげなくさりげなく「お父
さん、ありがとうね」って言おうと。すると、
まただれかが「それは難しい。とても恥ずかし
くて言えない」、「いや、難しく考えないで、自

3. 安全マップ作り

1年生の児童達から音楽会と給食の招待状が来ました。



4. パトロール中の会話



チャリティバザーでオバパト漬けや手作り料理の販売風景です

4. パトロール中の会話

主人達を生き活きと長生きさせて年金をいただく方法???

毎日最低2回以上、「お父さん、ありがとうね」

生活費は現金手渡しで受け取り、「ありがとう。預かって大事に使います」

主人達が夜のパトロール活動への協力



動販売機のようにさらっと言おう、「もうやってみよう」ということになりました。

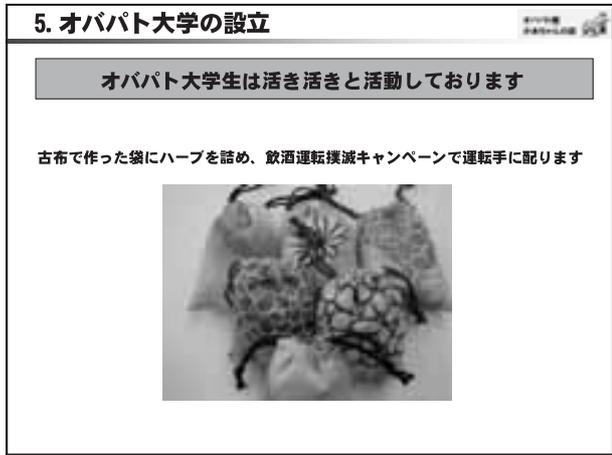
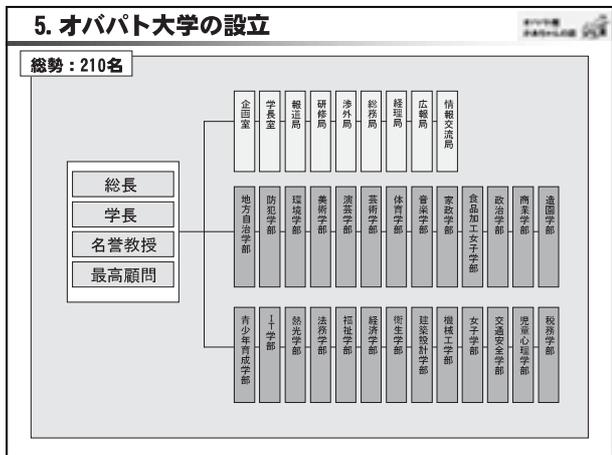
ある日、私も脂汗をかきながらのどに詰まらせてかすれた声で「お父さん、ありがとうね」と言いました。「ええっ」って主人が言う。「何がね」。その先は考えてもいなかったし、だれも教えてくれなかったんですよ。打ち合わせがなかったの。しどろもどろになりましたが、「いつもいつもお父さんありがとう、ありがとうと思ってるから、つい出てしもうた」と逃げました。すると、主人はすっただれもないところへ行っ、1人でにやにや、にこにこ、もう1日それはご機嫌でございました。純情ですね。単純ですね。

オバパト大学設立

そうしているうちにですね、隊員の主人たちが交代で、夜のパトロールのとき私たちの後ろから50メートルぐらい離れて、見え隠れしながらついてくるようになりました。私たちは知らぬふりをしておりましたが、またしばらくすると、男性たちからオバパト隊へのオバパト協力隊としての参加をしたいという申し入れがありました。女性だけのオバパト隊が主体で男性が協力隊では余りにも何かのようで申しわけがないので、男性たちを主体にして前に出したオバパト大学を設立することになりました。地域の各種団体長、それから隊員の人たちのご主人たちを取り込んだ一大地域パトロール隊ができたのです。

そこで、オバパト大学をつくりました。小学校の体育館で開校式をすることになりました。男性が参加してくれるようになったおかげで青パトができ上がりまして、今6名の人が免許を講習していただいて、毎日、青パトが昼も夜も回っております。オバパト大学には26の学部をつくり、全員に教授と助教授、事務局長に総長、それに学長、もうそりゃすごい肩書がつけました。もうそれはオバパト大学の信条、それからオバパト大学の学則ができ上がり、それを全部に張りつけました。何という、男性は生きてこられた歴史の中の経験、知恵、能力、それはすばらしい、すばらしいものを発揮されます。もう目を見張るように活動されます。男性は生き生きと再チャレンジの場ができ上がりますと、毎月の勉強会が本当に楽しくてワクワクするように楽しいものになります。

主人へのリップサービスはいつの間にか本物になりましてですね、「ありがとう」の言葉は間違いなく男性を生き生きさせます。今日は男性が多いから言いにくいですね。この調子でいきますとですね、ずっと長く年金は心配要らないようでございます。どの家庭も平和、もうラブでございます。家庭の平和の中からパト



ロールの原動力は生まれます。みんなが一丸となってパトロールをしてみると、いろいろな情報が手にとるようにわかってきます。

学校議会の設立

そうしますと、やはり下校時のいじめは少し感じます。まず、いじめは学校のげた箱の乱れから感じ始めます。でも、これだけはだれもが簡単に入り込めないデリケートな問題がございます。各地で優秀な先生の自殺、子供の相次ぐ自殺が見られます。それを見るたびに胸がふさがります。この子が我が子、我が孫であったら、どんなことだろうということになります。幸い私たちの住む尾ノ上小学校は、学校側のすごい協力がございます。学校で知恵と時間をいっぱいいただき、協力して何事も起こらないうちに

と、先生たち、それから児童、保護者、学校評議員、これは全部オバパトでございます、それが一堂に参加した学校議会の設立することにいたしました。

あわせて学校のクラスの中に四、五人で仲よし班というのをつくりました。そして、お互いに児童が見守ります。そうしますとですね、言いにくいことは、「心の玉手箱」というのを学校の校長先生のところの廊下に設置して、そして言いにくいことは郵送で、「心の玉手箱」の中に届くようになります。その中身は非公開で、会議の中で知恵を絞りますが、私たちは、おこがましくも最初は、生徒の悩みを受けとめてやりたい、先生たちの立場も理解して守ってやりたい、保護者の校外バトルも解消したいとの思いで設立したのですが、会議に児童を参加させたことで、生徒は率直な意見をその会議の中で堂々と発表します。「先生たちは、僕たちが思い余って相談に行くときは、どんなに忙しくても後でねって言わずに、軽く受けとめないで、真剣に聞いてほしい」とか、「私たちは学校でISO活動、つまり水や電気、緑いっぱい運動をしています。学校だけでなく各家庭で一緒にやりましょうよ」とか、それは子供から教えられることばかりで、先ほどもおっしゃいましたけど、子供からも教えられることばかりです。私たちの地域が恵まれているのかもわかりませんが、おかげで尾ノ上小学校は900人のマンモス校でありながら、不登校はゼロ、給食費未払いゼロ、朝食抜き登校者ゼロ、いじめはわからない部分もあるかもしれませんが、今のところゼロでございます。

オバパト隊の思い

私たちの夢はですね、これをしっかり今日は言わなきゃ、日本国中をオバパト隊でうじゃうじゃにしたいのです。パトロール隊の目の前で犯罪を起こす人はおりません。パトロールの目は、確実に犯罪を減らします。学校議会は少なくともいじめの予兆はキャッチします。パトロールは足腰を強くして、元気になります。お互いの会話でストレスは吹っ飛びます。地域や子供たちから声かけで心はいやされ、家族や行政に守られ励まされて、心も体もいやされます。リメイクの作業、先ほどの、心はわくわくいたします。

6. 学校議会の設立



パトロール隊員の生き甲斐

静かに考えてみますとですね、私たちが世のため、人のためと思って始めましたこのパトロール活動は、実は私たちの方が守られ、いやされ、感動と楽しみをもらい、子供に教えられ、今は生き生きと輝いております。さらなる夢は、この物にあふれた豊かな時代に、向こう3軒両隣の昔の心の豊かさを取り戻す時代は来ないのでしょうか。それに向かって頑張ってます。

私たちがいずれオバパト隊の座をオバパト予備隊...今、ママパトというのができてます。ママパトにバトンタッチする日が来ても、私たちは粘り強くババパトになって頑張り抜きたいと思っております。どうかこのパトロールの楽しさを知っていただき、私たちの夢をかなえてください。お願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

司会 大変ありがとうございました。

非常にユニークな楽しい発表ありがとうございました。

下川 何かご質問ございませんか。

下川さん、本当に楽しいお話ありがとうございました。

2つちょっとお伺いしたいんですけど、我々もちょっとお母さんから「お父さん、ありがとう」とさりげなく言われること、めったとないんですよね。ちょっと何か言われるような秘訣というものないですかね。

下川 そうですね。先ほど言いましたように、余り深く考えんで、「お父さん、ありがとうね。あなたと結婚したから私はこの年まで元気でパトロールができるよ。幸せ」、もう自動販売機のように連発するが一番でございます。

その逆を、私たちが「お母さん、ありがとうね」と言えば、返ってきますかね。

下川 私たちは、くれない族にはならないような決意をしております。主人があれをしてくれない、これをしてくれない、どこにも連れていってくれない、どうしてくれないという、くれない族には絶対ならないようにしておりますので、ありがとうなんて言われたら、それは宙に舞って喜びます。

くれない族にならないように。

それから、もう一つですね、先ほど高齢者の方の家を訪問されているということをお伺いしたんですけど、これはどういった基準で回られているのでしょうか。中には嫌な人もいらっしゃると思うんですけども、そこら辺は。

下川 そうですね。ひとり暮らしのお年寄りの方はさりと、家には上がりません。「おばあちゃん、元気ね。じいちゃん、困ったことはないね」、そのくらいの声かけで.....

表から声をかける

下川 表から声かける.....

そうですか。はい、ありがとうございました。

司会 はい、ありがとうございました。